

① 学習指導案

プログラム	No.5 「 地域カルタをつくろう 」
単元名 (全 時間)	筒方俳句 (全10時間)
学習のねらい	新潟県板倉区筒方地区のくらしや文化にかかわることを通して、くらしから感じる恵みや厳しさ、住まう人々の温かさに基づいて中山間地域に対する思いやそこに住まう人々とのかかわりをつくり変えながら、豊かにくらすことの意味や価値を考える。そして、筒方地区の魅力を写真や俳句に残し、広く発信する。
学習内容	1 筒方地区の農業や文化、住まう人々とかかわる 2 筒方地区の魅力を写真や俳句に残す 3 イベントなどで写真や俳句を発信する
参考資料 準備品 実施場所等	・ 個人用タブレット ・ プリンタ、写真用紙、インク ・ 写真を貼る台紙、写真額

学習の流れ

時間	学習活動	教師の指導	評価
2	筒方地区をまわり、魅力を写真に残す。	・ カメラマンの方から写真の撮り方を教えてもらう。 ・ 安全に配慮する。 ・ 筒方地区の魅力を見つけることができるように、様々な場所をまわる。	活動への関心（写真撮影） コミュニケーション能力（カメラマンの方とのかかわり）
2	写真を印刷し、題名をつける。	・ たくさんある写真のどのような点に惹かれたか話することができるように、理由を詳しく聞く。 ・ 例をとりあげて、イメージがわくようにする。	表現力（選ぶ写真や題名）
2	写真にあわせた俳句を考える。	・ 俳句のつくり、季語を伝える。 ・ グループで活動する。	表現力（俳句）
2	掲示し、多くの人に見てもらう。	・ 多くの人に見てもらうためにはどうしたらよいかを考える。 ・ 教室に通年掲示し、更新していく。	表現力（掲示の方法） 課題追求能力（他者に伝える方法を考える）

<留意点>

- ・ 筒方地区の自然や食べ物だけでなく、かかわる人やかかわってきたものなど、視野を広

くもち、様々なものに目が向くようにする。

- ・広い範囲での活動を行う際には、ボランティアを募集するなどして、安全に配慮する。

② 事業実施報告書詳細

学校名 上越教育大学附属小学校

時間数	場所	概要	活動記録(写真)	対象者の反応
2	筒方地区	筒方地区に住まう写真家の方と一緒に筒方地区をまわり、写真を撮影する。	 	・様々な場所へ出かけたことによって、地区の魅力のとらえをひろげた。 ・「絶景」と表現する場所を見つけ、地区の新たな見方をした。
1	学校	写真を印刷し、題名をつける。		・たくさん撮影した写真から筒方地区を表現できる一枚や自分のお気に入りの場所を選択していた。 ・写真を撮るときの目線に変化があったと自分の変化、成長を感じた。
2	学校	写真にあわせた俳句を考える。		・俳句であることから17音に思いを入れること、季語を入れて考えることに難しさを感じていた。しかし、体言止めにしたたり、表現技法を工夫したりすることで俳句を表現していた。
3	学校 市内の施設	写真とともに俳句を掲示し、多くの人にみってもらう。		・地域の人から「きれいな写真だね」「俳句もつくったの？上手だね」と褒めてもらうことによって、満足していた。 ・筒方地区を知らない人にも知ってもらうことができ、展示を多くの人に見てもらうことのよさを感じた。

「筒方の魅力発信！～筒方俳句～」の実施報告

2025/02/25

上越教育大学附属小学校 丸山 佳織

1 筒方地区で写真を撮影する

4月、筒方地区在住の写真家と一緒に筒方地区をまわり、写真撮影について教えていただいた。写真家からは、「写真は心が自由になっているときに、撮りたいものを撮影することが大切」という話があった。子どもは思いのままに撮影した。

その後も、筒方地区へ出かけるときには、タブレットを持参し、写真を撮影してきていた。子どもは、筒方地区の風景や季節の移り変わりを写真に収めてきた。12月、雪の降る筒方地区で雪遊びをする仲間や雪の中、散歩をして、地域の家を訪問している様子を写真に撮影している子どもがいた。人を映すことは個人情報の観点からよくないことであると理解しながら、筒方地区に溶け込む仲間の様子を写真に収めずにはられない子どもがいた。それは、これまでの筒方地区とのかかわりから季節だけでなく、筒方地区になじんできた自分たちを表す姿だったように考える。



4月、写真家と共に筒方をまわり、写真撮影をしている子ども



12月、雪遊びをしている仲間を撮影する子ども

2 撮影してきた写真を選び、俳句を考える

筒方地区で活動をした後には、お気に入りの写真を一枚選び、俳句をつけた。筒方地区は自然豊かな場所であることから、風景や四季の移り変わりを写真に撮影していることが多くあった。また、それに合わせて俳句を付けた。17音と季語のきまりはありながらも、その時の様子を表現できる一句を考えた。秋、いつも訪れていながら、行ったことがなかった神社の裏側を見つけた子どもはその場所を「秘密の景色」と表現したり、紅葉が始まったばかりの木を撮影し、擬人法を使って表現したりする子どもがいた。



秋の昼
神社の陰の
秘密の景色



紅葉が
まだかまだかと
待っている

12月には、擬人法などの比喩で表す子どもが増えた。また、筒方のおうちを訪れる仲間の様子を写真に撮影し、これまでは人の写る写真を撮影する子どもはいなかったが、その地区に入りこんだ自分たちを表現する子どももいた。

思いをもって写真を選び、俳句を付けることで、筒方地区のよさや魅力を一層引き立てる役割があった。写真だけでなく、俳句もともに、筒方を表現するものにつながった。



ふかふかの
雪にくるまる
上関田



雪の中
筒方地区の人に
ごあいさつ

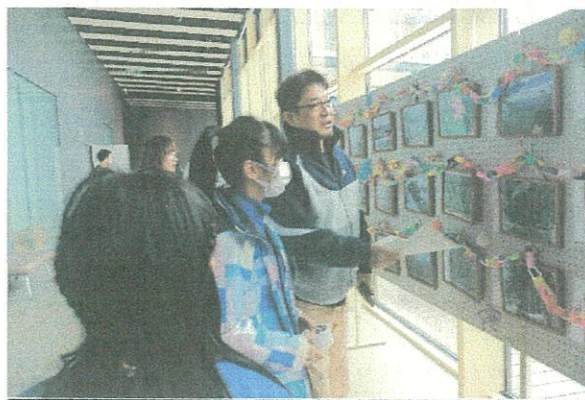
3 撮影してきた写真を掲示し、多くの人に筒方地区を発信する

これまで筒方地区とかかわり活動をしてきた子どもは、中山間地区における課題に直面した。自然豊かで、おいしいものもあり、美しい景色もある筒方地区は、少子高齢化であることや人口減少が著しいことを見つめた。そこで、筒方地区ではない人に筒方地区を知ってもらうことで、筒方を盛り上げることはできないかと考えた。そこで子どもは、これまで活動してきたことや筒方地区の魅力を伝えることを考えた。その中で、これまでためてきた写真と俳句を展示した。

子どもが撮影してきた写真や俳句は、様々な人の目にとまり、「上手に写真を撮ったね」と褒めてもらったり、「素敵な場所があるんだね」と話してもらったりした。これまで撮りためてきた写真や俳句をともに展示することで、筒方地区の魅力を発信し、見に来てくれた人の興味をひいたことを感じた。



展示された写真と俳句



展示を見に来てくれた人に、筒方地区について説明をする子ども

子どもは振り返りに、「中には、筒方に行ってみたい、行こうと思うと言ってくれた人もいて、私が話した中では、4人いました。嬉しかったです。こうやってイベントをすることで、筒方のことを知ってもらえたりすることは、とてもやりがいがあるし、筒方を通していろいろな人と仲良くなれたのかなと思うので、だんらん筒方の活動だけでなく、他の人とかかわるようなことをするのはいいなあと思いました。」と書きました。子どもは、筒方地区の課題を見つめ、自分たちにできることを考え、実行した。自分たちにできることは少ないが、筒方地区の人が元気になってくれるようにと願い、活動をすることができた。

③ 実施内容について

(1) 実施にあたり工夫した点 ・写真家の方から、写真の撮り方を話していただいた。 ・自分の撮りたい場所を撮りたい角度で撮れるようにした。
(2) 実施にあたり苦労した点 ・タブレット機能を使って、筒方地区の様子ではなく、仲間同士で面白い写真を撮影する様子が見られた。 ・人の確保ができず、広い場所を自由に動くことができなかった。
(3) 児童の反応 ・筒方地区の様々な植物や風景を写真に残した。 ・写真家の方に自身の写真を見てもらい、褒めてもらうことで、自信につながった。 ・様々な角度から写真を撮り、自分の撮りたい角度で撮影する様子が見られた。 ・写真を施設に展示し、自分たちの写真を見てもらうことで、筒方地区を伝えることができたという満足感をもった。
(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化 ・写真家の方からは、「写真は心が自由になっているときに、撮りたいものを撮影することが大切」という話があった。子どもの思いのままに撮影できることが大切だと改めて感じた。 ・筒方地区での様子や感じたことは、俳句に表現する子どもが多かった。17音や季語についてはきまりがあっても、そこで感じ取ったことを自由に表現できることを実感した。
(5) 今後の課題と取り組み〔児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等〕 ・子どもは、写真を撮り、たくさんの人に見てもらいたいという思いや願いをもった。また、子どもは、写真家の方から写真集をいただいたことにより、自分や仲間の写真を掲載した本をつくりたいという思いになっている。学級に写真を掲示できる場所を設置したり、筒方地区を知らない人に伝えたりする場をつくることで、子どもの思いを実現させた。 ・最後、子どもは、筒方地区で活動したこと、感じた魅力から考える豊かなくらしについてまとめていく。